

製品名: カゼインキナーゼ Iε ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07947**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	47kDa

抗原情報

遺伝子名	CSNK1E
別名	CSNK1E; Casein kinase I isoform epsilon; CKI-epsilon; CKIε
遺伝子 ID	1454.0
SwissProt ID	P49674
免疫原	抗血清はヒト CKI-ε 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 276-325

背景

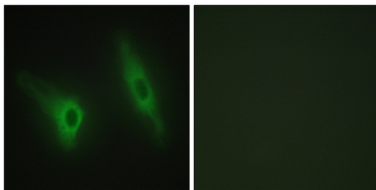
カゼインキナーゼ 1 イプシロン (CSNK1E) Homo sapiens この遺伝子によってコードされるタンパク質は、セリン/スレオニンプロテインキナーゼで、カゼインキナーゼ I タンパク質ファミリーのメンバーです。このファミリーのメンバーは、DNA 複製と修復を含む

細胞質および核のプロセスの制御に関係しています。コードされているタンパク質は、細胞質内でモノマーとして存在し、自身を含むさまざまなタンパク質をリン酸化できます。このタンパク質は、概日リズムタンパク質である period をリン酸化することが示されています。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする 2 つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2014 年 2 月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: カゼインキナーゼは、カゼインなどの酸性タンパク質を基質として優先的に利用することで操作的に定義されます。多数のタンパク質をリン酸化できます。Wnt シグナル伝達に関与します。DVL1 をリン酸化します。概日時計の中心的な構成要素。PER1 および PER2 をリン酸化することで、概日リズムの負の調節因子として作用する可能性がある。PER1 を細胞質内に保持する。サイトカイン誘導性の顆粒球分化を阻害する。誘導: 顆粒球分化中にダウンレギュレーションされる。PTM: 自己リン酸化される。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。CK1 Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。カゼインキナーゼ I サブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: モノマー。CRY タンパク質、CLOCK、NPAS2、BMAL1 または BMAL2、CSNK1D および/または CSNK1E、TIMELESS、および PER タンパク質を含む概日リズムコア発振器の構成要素。PER1 および PER2 と直接相互作用し、それらの分解を引き起こす可能性がある。ANKRD6 および SOCS3 と相互作用する。組織特異性: 脳、心臓、肺、肝臓、脾臓、腎臓、胎盤、骨格筋を含む、検査したすべての組織で発現する。単球およびリンパ球では発現するが、顆粒球では発現しない。

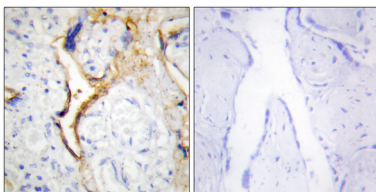
研究分野

WNT;WNT-T 細胞ヘッジホッグ;概日リズム;

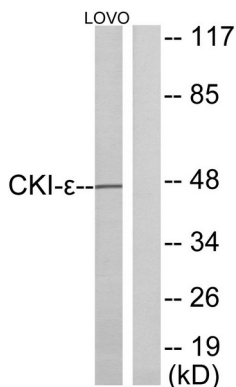
画像データ



CKI-ε 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



CKI-ε 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト胎盤組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



CKI-ε 抗体を用いた LOVO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。

カゼインキナーゼ Iε ポリクローナル抗体を用いた LOVO 細胞のウェスタンブロット解析

